

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-78	実施計画番号	96	事業開始年度	
事務事業名	老人クラブ活動の支援			事業終了年度	
担当課名	高齢介護課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	厚生労働省老健局通知(H13.10.1老発第390号)	関連事務事業			
背景や経緯等	高齢者の生きがいがづくりのために、老人クラブに対して老人福祉バスの運行を実施し、健康増進事業や教養講座、社会奉仕活動等を支援する。				
事務事業の目的	高齢者が生き生きと暮らすために、老人クラブ活動を通じた、積極的な社会参加を促進する。				
実施状況	老人クラブ活動の活性化を図るために、健康増進事業や教養講座・社会奉仕活動の事業への支援を行うとともに、老人福祉バスの運行により、高齢者の社会参加を促す。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	24	24	24
	人件費(千円)	864	864	864
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	16,496	18,551	18,360

【指標】

活動指標	活動指標名①		老人クラブ会員数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	1,931	1,866	2,000	
	活動指標名②		老人クラブ数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			クラブ数	59	60	62	
成果指標	成果指標名①		老人福祉バス延べ利用者数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	目標値	4,500	4,500	2,800
				実績値	4,131	3,500	
				達成度(%)	92%	78%	
	成果指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	目標値			
			実績値				
			達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 4</td> </tr> </table> 老人クラブ会員の高齢化や新規加入者の減少により、老人クラブ主催の各事業の参加者数は減少傾向にある。しかし、高齢者ができる限り介護を必要とせず住み慣れた地域で生活するためには、重要な社会資源である。	存在意義の見直しの余地	1 / 4
	存在意義の見直しの余地	1 / 4						
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2					
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">3 / 6</td> </tr> </table> 老人クラブ会員の減少傾向は年々進んできている。今後、老人クラブの活動を通し、お互いに助け合える風土を作り上げていくため、活動への柔軟な対応や、生きがいづくりにつながるような活動の展開が必要である。また、活動拠点が、老人福祉センターから交流プラザに移り、身近な公民館等でも行われている部分もあり、老人クラブ活動全体を把握できづらくなっている。活動状況全体が把握できる方法の検討が必要である。	成果向上の余地	3 / 6
	成果向上の余地	3 / 6						
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1				
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1					
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> </table> 老人クラブ連合会や単位老人クラブは、主体的に計画立案・運営を行い活動をしている。しかし、今年度より、バス契約の変更により、コストの上昇を抑えるため、単位老人クラブのバスの利用を2回から1回に減らした。コストは、昨年並みに抑えることができそうだが、事務手続きが煩雑となり、改善のための検討が必要と考える。	コスト削減の余地	2 / 6
	コスト削減の余地	2 / 6						
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1				
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2					
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> </table> 老人クラブの意義や参加を促進できるように、町内会や老人クラブ連合会会報などを活用して広く市民に呼び掛けている。	受益者負担適正化の余地	0 / 4
	受益者負担適正化の余地	0 / 4						
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2					
現在の適性					14 / 20	改善の余地	6 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **14** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **6** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

効率性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

老人クラブの活動は、高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って暮らしていくための社会参加の促進と、介護予防による、健康寿命の延伸のためにとても重要な活動であると考えているため、今後も支援していくことが必要である。しかし、平成27年度から、バスの契約方法変更により、事務手続きが煩雑となり、これまで以上に時間を要している。この点については、他市の状況を踏まえ、改善が可能か検討が必要である。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

新規会員加入促進に向けた活動は、強化活動として老人クラブ連合会を中心に実施されている。具体的には、町内会への説明会の実施、取り組みについての検討会が新聞記事にも取り上げられた。今年度は、新規設立クラブが、年度の途中で1団体立ち上がっている。今後も、新規会員加入促進のため、老人クラブ連合会や単位老人クラブと連携・協議し、魅力ある老人クラブの活動に向けて、検討・周知を行っている。バス契約に係る事務については、連合会とも協議を進めていく。